



“写真の力”で北海道を応援する

NPO法人北海道を発信する写真家ネットワーク

北海道の魅力をより広くより深く伝えたいと、「写真の力」で北海道を応援する」を合言葉に、北海道在住の写真家が集結し、2007年4月「NPO法人北海道を発信する写真家ネットワーク」が発足し、8月25日～9月9日第1回の写真展「CAN (Culture And Nature) in HOKKAIDO」を開催しました。

理事長の佐藤雅英氏に設立の経緯や今後の活動についてうかがいました。

北海道写真家ネットの設立

日本では有名カメラメーカーなどが多く、写真人口は多いのですが、スナップ写真としてアルバムに収めることが大半で、写真を額装して芸術として鑑賞する習慣が少し足りないようです。



道内のホテルに北海道の風景写真や歴史的建築物をモノクロ写真などで額装して展示すると、外国人観光客に評判がよく、場所を聞かれることが

多くあります。欧米諸国ではモノクロ写真を大切にしている大変人気があり、ホテルのロビーや客室、自宅の居間などに額装して飾られ、写真家の作品が美術品としての評価を得ています。また、収集対象として取引されるなど、写真は生活文化の一部として、芸術として社会に根ざしています。

日本における写真文化は、広告媒体としての地位は確立していますが、芸術写真に対する社会的理解は残念ながら欧米に比べて低いのが現状です。常設の写真美術館設置や作品の流通環境の整備などを通して写真作品に触れる機会を増やすことが、写真文化の発展に重要な役割を占めると考えています。

現在、北海道に在住する写真家による商業ベースでの美しい北海道の魅力をPRする活動はありますが、写真家本来の作家活動による作品発表の場は意外と少ないのです。作家活動で生み出される作品には、観光写真で見るとような風景写真だけでなく、北海道が持っている本来の魅力、またその地域の季節や時間を知り尽くした写真家でなければ撮影できない素晴らしい作品がたくさんあります。

そういった北海道の美しい作品をもっと知ってもらいたいと、2006年12月、北海道在住の写真家が集結して活動できる拠点を構想し、呼び掛けました。その結果、自分たちの作品を発表することで、写真家として北海道を応援することができるならと多くの賛同を得て、2007年4月2日、「NPO法人北海道を発信する写真家ネットワーク（略称「北海道写真家ネット」）」が設立されました。メンバーは北海道に在住する写真家ですが、日本写真家協会の会員が半数も参加するのは初めてだということです。まして、北海道で活躍している広告関係の写真家、個展や写真集を専門とする写真家が一堂に集まったことが画期的なことなのです。

特定非営利活動法人とすることで団体としての社会的信用度を増し、関係機関との連携がスムーズに行われ、各分野における新たな活動を積極的に展開することで、北海道の魅力を多くの方々に発信することが可能になります。

写真家ネットが目指すもの

北海道は、世界遺産知床、6つの国立公園、4つの国定公園、14の道立自然公園、12のラムサール条約登録湿地を擁し、世界でも数少ない、明瞭な四季に抱かれた美しい自然を誇っています。また、豊かであつて厳しい自然環境と共生してきた独自の歴史と文化をあわせ持っています。

また、北海道をテーマとするあらゆるジャンルの、北海道在住の写真家によるあらゆるテーマの写真作品によって、「北海道」の全てをアピールし、それによって日本の写真文化の向上にいくらかでも貢献したいと考えています。

私たちが扱う写真は、北海道の自然、文化、社会、生活、環境、歴史、スポーツ、科学、商品など全てのジャンルをカバーし、また、その役割は芸術、記録、報道、学術資料等々多岐にわたります。また、手法も銀鉛（フィルム）・デジタルを問わず、北海道に関する全ての「写真」媒体の持つ可能性を極限まで追求したいと願っています。

具体的な活動としては、①会員写真家たちによる写真展や写真技術普及のためのセミナーの定期的開催、②写真集やオリジナルプリントの販売などを通じた会員の作品紹介、③さらには常設写真展会場の設置などを目指しています。また、国内や海外などでも積極的に巡回写真展を開催したいと考えています。

北海道写真家ネットでは、国内外のさまざまな

ジャンルで活躍する写真家が北海道を広く世界に発信することで、北海道の産業や観光の活性化につながり、また北海道の自然環境の保全や社会・文化の発展にも寄与することができると思っています。

もっと伝えたい。写真の力。北海道の力。

第1回目の活動として、8月25日(土)から9月9日(日)の間、札幌市のモエレ沼公園ガラスのピラミッド「HIDAMARI」スペースを会場に、「活かす (Nature) / 生きる (Culture)」をテーマ・コンセプトに、第1回写真展「CAN (Culture And Nature) in HOKKAIDO」を開催しました。50余名の会員写真家たちがさまざまな視点でとらえた北海道の自然、そこで息づく動植物、それらと向き合いながら生きる人々の営みを216点の写真作品として展示しました。

この写真展では、写真にできること。写真だからできること。言葉の違いの壁を超え、世界の人々に、そして次の世代に伝えたい北海道の真の美しさ、たくましさ、そして私たちの誇り。北海道だからできることと、その可能性の広がりや深さを目指したといいます。

Nature : 自然を〈活かす〉

私たちが暮らす北海道は、日本海、太平洋、オホーツク海の3つの海とその海流に囲まれ、2つの暖流と1つの寒流が交差する、地球上でも希少な位置にある小さな島国です。また、温帯の北端



であり、亜寒帯の南端でもあるこの島の生態系は極めて多様であり、3の海流がもたらす気象とも相まって、明瞭な四季の^{めいりょう}変化と彩りは、豊かで多彩です。

私たちは、この地球上でも希有な自然環境を保全し、活かしていくことに、北海道の果てしない可能性を見いだしていきたいと考えます。

Culture : 文化を〈生きる〉

北海道という、固有の地勢と特有の気象のなかで暮らす人々の営みが、地域ごとに独自の彩りを醸し出す風土を創り出し、多様な人々の集積から都市が生まれます。カルチャー（文化）の語源が「土を耕す」ことであるように、開墾して築かれた風土や都市のカタチそのものが文化であり、私たちは日々文化を生きています。

恵まれた豊かな自然を活かし、保全していくことにより、「文化と自然が共生できる約束の地」としての北海道に限りない可能性を見いだします。

ドキュメンタリー写真発祥の地・北海道の誇り

写真は1839年にフランスとイギリスで同時に発明されました。日本への渡来は1841年ころとされていますが、日本に最初の写真館ができたのは1862年です。そしてその7年後の1869年（明治2年）、北海道に開拓使が置かれ、その状況を伝える政府への報告に、当時の最新テクノロジーとしての「写真」が用いられました。

こういった経緯から、北海道の多くの市町村は、誕生のときから今日まで写真に撮られ続けられてきました。写真の黎明期^{れいめい}と北海道の開基期が偶然にもリンクしたことで、北海道はコミュニティ史と写真が結びついた、写真史上世界的にも希有な地域です。

また、開拓使が当時の写真師（田本研造、武林盛一ら）に依頼して撮影した数々の写真は、極めて優れたものであることから、北海道は「日本のドキュメンタリー写真発祥の地」として写真史に位置づけられています。

このような北海道と写真との関係と歴史を踏まえ、それを誇りとして、私たちは活動を続けたいと考えます。



北海道洞爺湖サミット

2008年7月7日から9日にわたり「G8北海道洞爺湖サミット」が開催されます。この決定と同時に、北海道には世界から熱いまなごしが注がれており、サミットは北海道を世界の人々に知っていただく絶好の機会となります。微力ですが、写真で北海道を発信する私たちの活動が、その一助となることを願っています。

最後に佐藤理事長は「写真の力は決定的瞬間を表現できることですが、写真を見る方も見る力が必要なのです。写真を見る力をつけるには、多くの作品を見て、目で触れて感性を養うことが必要になります。今後、写真家ネットワークでは、そういう場所づくりに取り組んでいこうと思っています」と抱負を語ってくれました。

この写真家ネットワークの作家活動によって、さらに北海道の魅力が引き出され、写真を通して道外のみならず世界中に伝わり、北海道にきたいという人が一人でも増えることを期待したい。そのために写真家ネットワークは、これからも写真というストレートな文化で、素晴らしい被写体の北海道を撮り続けていこうでしょう。

NPO法人北海道を発信する写真家ネットワークホームページ「ノースファインダー」

<http://northfinder.jp/>